市長と語る

〝市民の声が生きる市政を〟――と、いままで「市長へのたより」・「市政懇談会」を開いてきました。しかし、勤めの関係で集りに出席できない。ハガキでは言葉がつくせない。総花的で実のあるものになっていないなどの反省がありました今年からは新しく、何人かを市役所に招き、商工、教育、保育、都市計画といった部門別にテーマを絞り、じっくりと語合う「市長と語る会」を計画しました。

第一回は〝農業〟です。活躍し五十年度農業部門でそれぞれ賞を得た三人と話合ってもらいました。

そこで、その要旨を

＊……＜自分の農業をふりかえり＞

▒ 努力すれば先に必ずよいことがあるという気持をもちつづけてきた。親の生活を見て農業はいやであった。やるからには思いどおりの農業をと考え、米さえ作っておればよいときに、四十一年三人でオランダからチューリップを導入し、土壌が合わず失敗。四十五年の減反政策で水田を畑に換えてきうりを始める。四十六年にパイプハウス、四十九年に大型ハウスに。でも主体はやっぱり米で、水田を受託田含め四㌶にした。

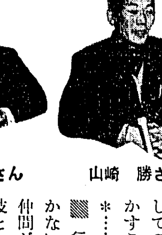
▒ 農家の長男に生れ、農業を継ぐこと当然と思って疑問は持たなかった。二・六㌶の経営からはじめた。七ケタ農業が目標。二年間は出稼ぎ、畑地にハウスを取入れる。野菜の行商もやった。四十五・六年、水田を買入れ、ハウスを千坪にする。四十五年に五百万円、四十九年に九百万円と目標を次々に引上げやってきた。この間、後継の実習生約百人の指導をやった。個人では限界があるので協力して園芸組合を結成した。ハウスには養鶏場、競馬場から肥料をもらい、農薬は調整用だけにとどめて所得率を五五㌫以上にするため努力した。

▒ 出稼ぎを八年間続けた。そこで老人を見る。自分もそんなになるのか。農業一本で生きることを決めた。借金して水田を購入。四十三年に五十㌃を、四十五年に受託を含め四・八㌶に。農地取得資金制度を利用した。五十年には七・五㌶とした。機械貧乏からぬけ出るには、耕地面積の拡大しかないと考えている。

▒ 静岡の出稼ぎで農業もやり方ひとつでやれると知ったとにかく、サラリーマンに負けたくない。これがバネになっている。

金子 益夫さん

長川谷　勇さん


山崎　勝さん

＊……＜複合型か　米一本か＞

▒ 高能率の機械を生かす農業は個人でも十㌶は可能と思う、この場合、複合経営はむり。

▒ 稲作は労働のピークがある。ハウス栽培の複合型が労働の面からよいのでないか。

▒ 米を作る人とまかせる人とでひとつの組合を結成した受託者は話合って耕作地の集団化ができるし、委託者も安心だと好評だ。

▒ 農業を経営から考えると機械に合う品種を作る。多収穫の米を選ぶ、除草にも問題がある。兼業農家では「農」を適当にはぶき、早く出稼ぎした方が経済的によい、ということになると、農業基地としての豊栄の農業は土地を生かすことにならなくなる。

＊…………＜仲間たち＞

▒ 行政批判だけではラチあかない。わたしの場合、常に仲間がいる。どんな人でも特技というか「よさ」を持っている。人との交渉がうまい人無口だが野菜作りの名人とかそのよさを集めて問題を解決してきた。

▒ 野菜は収益の波が大きいそれで、積立金の天引きをやっているが、仲間が束になって助け合う共済制度を強化することがぜひ必要だ。

＊…………＜後継者のこと＞

▒ 後継者不足は、農家の経営規模からして、その家庭のサイクルにあるともいえる。息子が農高を出るとき、両親も元気で二人でやってゆける年が行くまで息子を勧めに出す。息子は農業からはなれ、親が老いてから農業にもどるべきかで悩むわけだ。

▒ 結局はその個人の意志で決めることだが、農業をやめて行く人はしかたがない。残された土地をどうするかだ。農業で行くという人だけが残ることになるだろう。

＊……＜農協合併のこと＞

▒ 以前の研修会で農協合併の調査を行ったら九〇数㌫の賛成結果が出たことがある。帰っていろいろ聞くと、君たちの代になってからやれとの意見が多い。

▒ われわれ以下の若ものたちは合併することを望んでいる。営農指導を例に取れば、一人の指導員が何んでもやっている。合併によって指導員が専門的に勉強ができ、このことはあの人にというようにどんな相談にも応じられる。資金面でも大きな事業ができるのではないか。

▒ 共済組合の合併で、共同防除など、よくなったと聞くが悪かったとは耳にしない。よい見本があるのだがね。

▒ でも、合併した農協はこうあるべきだという姿がなければ、ただ大きくなっただけでは合併の意味がない。合併によって出てくるマイナス面をどうカバーするかということも考えなければならんのでは

＊…………＜人間に投資を＞

▒ 農業にしろ何にしろ最後は人間自身なんで、高い機械を買っても合わないことを知っていながら購入しているのも人間なんで、少々の補助金を出すよりも、やる気のある人間に投資する制度ができんだろうか

▒ 豊栄の農業にいま一番必要なのはすべての面で若がえりでないか

▒ 豊栄の農業のゆくえを話し合う機会をもっとつくってほしい。

《出席》〇市優秀農家として市農業改良会議から表彰された山崎勝さん（高森＝三十四歳）〇毎日新聞社主催の農業記録農林大臣賞受賞の長谷川勇さん（内沼＝三十二歳）〇農業後継者育成、園芸組合の組織づくりの功績で県農業まつりで知事賞の金子益夫さん（松影＝三十二歳）

『豊栄駅』誕生で　祝賀行事を計画

4月1日

葛塚駅の名称が四月一日から「豊栄駅」に変ることを先月号でお知らせしましたが、この駅名改称の祝賀行事が計画されています。

はやくから駅名改称運動を行ってきた商工業者、市工業振興会、市農協連と土改連絡協議会、市や国鉄で駅名改称祝賀実行委員会がつくられ、同会が中心となって祝賀の準備をすすめています。

行事は、駅前に祝賀アーチをつくったり、構内にちょうちんや横断幕で飾り付けをする。四月一日の一番列車の到着時に花火を打上げ、運転士車掌に花束贈呈。記念のフラワーボックスを駅に備えつける。アドバルーンをあげるなど、また会費持寄っての祝賀会を午後二時から中央公民館で開く計画を立てています

国鉄では、豊栄駅誕生を記念しての三百円の急行券を新潟駅、豊栄駅、新発田駅の三カ所で一万三千枚を一日から発売します。

一方、駅前通りの白新町商店街、本町通商店街でも、店頭を紅白の幕や造花で約十日間飾付けを行って駅名改称を祝う準備をしています。

なお、この祝賀行事の経費は、すべて各団体の寄附金でまかなわれ、市商工会をはじめ、工業振興会とよさかシール会、市金融団、農協連、食品衛生協会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、白新町・本町通り商店街から同実行委員会に寄附金などが寄せられました。

＜白新線のあゆみ＞

- 大正十四年　関係市町村で両新鉄道建設促進期成同盟会を結成
- 昭和十一年　白新線建設案国会を通過
- 昭和十四年　白新線建設起工
- 昭和十八年　戦争のため工事中止
- 昭和二十七年七月　建設工事再開
- 昭和二十七年十二月　新発田葛塚間開通　駅開業
- 昭和三十一年四月　全線開通
- 昭和四十七年十月　電化される
- 昭和五十一年四月　駅名を葛塚から豊栄と改称

駅の標札こんども　吉田光一さん（下町）が寄贈

吉田さんは、葛塚駅誕生のとき、加治川の桜の木からつくったという標札を駅に寄贈しています。

新しい標札は、厚さ三㌢、横三十三㌢、たて一㍍五㌢のカツラの木。材料は吉田さん方で昭和二十一年から白新線の新発田駅間開通のときの昭和二十七年白新堂と店の名を改めるまで可芳堂の看板としてだいじにされていたもの。

標札の「豊栄駅」の文字は吉田さんの筆で書かれ、墨だけでは消えてしまうことから彫り込みにするということです。

また、二十三年間の歴史をとじる葛塚駅の標札は、市の博物館に寄附され、長く保存されることになりました。

捨てる前にもう一度考える

「生活を見直し、自分にとって何が大切かをつかもう」――市婦人大会が二月二十二日中央公民館で開かれました。

大会は、午前十時から「捨てる前にもう一度考えよう」と題して石田スミエさん＝糸魚川市平岩＝の講演（写真）午後は、山本ミヨシさん（生活学校運営委員）などを助言者に、年代別の四分科会に分かれての話合いが行われました。大会には婦人会員主婦など各地区から二百三十人あまりが参加しました。

石田さんは、家庭で廃品として捨てられる物をもう一度利用できないかを考え、ビールビンのフタを集めてナベ敷ストッキングを太い糸状に切って編み、敷物やアカ取り、靴みがきに、セーターから子ども用タイツと手袋をといったように、アイデアで作った約五十点もの自作の実物を展示しながらのお話でした。

午後の分科会では、はでになりつつあるといわれている最近の冠婚葬祭のあり方などが話合いされ、今後、めやすとしての基準のようなものを作り、地域全体の申合せをするよう自治会など他の団体にも働きかけることなど、運動の進めかたも討議されました。

また、参加者全員に商工公害課発行の「くらしの豆知識」（新書版百九十六ページ）の小冊子がくばられ、参考になると好評でした。

沖縄「新潟の塔」に　八十七万四千円の寄附

太平洋戦争激戦地の沖縄に「新潟県の慰霊塔を建てよう」と県連合遺族会など沖縄に県の慰霊塔を建てる会の呼びかけに応じて豊栄でも、市遺族会、傷痍軍人会、軍人恩給連盟の団体が主体となって募金運動が行われてきました。

沖縄で戦った山田清郎治さん（上黒山二区）が五万円を寄附など、総額八十七万四千三百円の寄附金が千四十六人の方々から慰霊塔を建てる会に寄せられ、このほど県本部に納入されました。

慰霊塔「新潟の塔」は、県産の自然石に安田町で文字が刻まれ、一月十日、沖縄県の管理する摩文仁が丘霊域公園に建てられました。

除幕式には同会副会長の石井市長も出席し豊栄出身の二十二名の戦死者名簿を奉納、アイスボックスで運んだ雪だるまがかざられました。

この募金と同時にすすめられていた県護国神社奉賛会鎮座三十周年記念事業奉納金にも、七十六万三千七百五十二円の浄財が寄せられ、新潟県護国神社に奉納されました。